

【施策評価調査】

施策名	3-3-2	急傾斜地崩壊及び河川氾濫防止		101	総合的防災体制の中において、急傾斜地危険箇所や洪水災害予想図(ハザードマップ)を作成し、対策や情報、危険性を住民に正確に周知し被害を最小限に食い止めます。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部署	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		
		リーダー	岡本 英男		
環境変化	特になし				施策内容 県と協力して町内11箇所の急傾斜地崩壊危険箇所に関する調査を実施し、危険度に応じた対策を行います。また、水防等のハザードマップ*を作成して、災害に対する注意を喚起します。 (*「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：急傾斜地崩壊危険箇所調査回数	平成16年度 調査回数実績	計画	3回	3回	4回	4回	4回
		実績	3回	1回	1回		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	0	0	0	0	
決算	0	0	0	0		

事務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)		
急傾斜地崩壊及び河川氾濫防止事業費	H21 現計 0	危険箇所調査回数 4回	事前に現地調査を行うことにより、急傾斜地崩壊危険箇所や河川重要箇所の平常時の状況がわかり、災害発生の危険性が高まった時との比較により災害被害を最小にとめることができます。		今後の方向性 (総合評価)
	H22 計画 0				
	H21 現計				今後の方向性(総合評価)
	H22 計画				今後の方向性(総合評価)
	H21 現計				今後の方向性(総合評価)
	H22 計画				今後の方向性(総合評価)
	H21 現計				今後の方向性(総合評価)
	H22 計画				今後の方向性(総合評価)
	H21 現計				今後の方向性(総合評価)
	H22 計画				今後の方向性(総合評価)

施策事前評価 22年度の組立て

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性	矢板土木事務所・都市整備課・地域安全課の行政側と該当地域住民が急傾斜地崩壊危険箇所や重要水防危険箇所の現況について共通認識を持ち、情報交換を行いながら災害に備えることにより、早期に防災上の対策や関係部所相互の連携を高められる。	
現状水準維持			
総合評価	この施策がどのような方向に進むべき施策であるのか、検証した上で事前に災害を防止する予防保全を計画的に行っていくのか、災害が起こったときに機能的に動くための施策展開とするのか、後期計画に向けて関係機関、関係課と検討し、明確なビジョンの策定をすること。		